



# ENGINEER® の MPDP ダイアリー



## [Profile]

東京大学工学部卒業後、三井造船入社。米国レンスラー工科大学で修士課程修了後、(株)エンジニアの前身である双葉工具に入社。2004年に同社代表取締役社長に就任。独自の「MPDP理論」によるニッポンのモノづくり立国を提唱している。

高崎 充弘

## 第21回 2009年グッドデザイン賞への初挑戦

「MPDP理論」の一つとしてデザインを抽出した背景に、ネジザウルスGTのグッドデザイン賞の受賞があります。今回は2009年に当社が初めて同賞にチャレンジした経緯についてお話ししたいと思います。

開発の出発点は、本稿でも既に紹介しているように愛用者カードに記載された「グリップを太くしてほしい」というユーザーの強い要望でした。従来型のグリップは安価ではあっても、細く、力が入りにくかったのです。リーマンショック後の厳しい経営環境において数百万円というのは非常に大きな投資でしたが、射出成形用の金型を製作することを決定しました。

数日後の開発会議で、ある若手社員から「グリップのデザインをやりたい」と希望がありました。彼は設計や組み立て、品質検査の担当者。デザイナーとしての教育は全く受けていませんが、当社のような中小企業は社員のモチベーションがとても大切で、やりたい人間にやらせるのが経営の秘訣。思い切って任せることにしました。

数カ月にわたり3次元CADで設計と検証を繰り返し、最終的に完成したグリップは、エルゴノミクス（人間工学）が十分考慮され、かつメカニカルな外観を持つ斬新なデザインでした。それまで、グッドデザイン賞は家電や自動車メーカーのように華やかな大企業が受賞するもので、当社には敷居も高く、縁がないと思っていました。

しかし、何としてもネジザウルスGTをヒットさせたいという強い想いと、この優れた機能とデザインを審査員の方々にぜひ見ていただきたいという気持ちもあったので、同賞に初挑戦することにしました。

期待と不安が入り混じるなか、1次審査、2次審査と進み、受賞が決定した瞬間、「これで「憧れのGマーク」をネジザウルスに付けることができる！」と社員一同大いに興奮し、感動しました。

東京ミッドタウンで開催された表彰式では、大賞候補のデザイナーによるプレゼンテーションが行われていました。デザインコンセプトやデザイナーの想いなど、色や形だけではないデザインの奥深さを強く感じました。

これが当社にとって大きな転機となりました。デザインに開眼した瞬間です。そして「MPDP理論」の重要な要素としてデザインが抽出されました。

その後もデザイン活用を積極的に推進してきましたが、前号で報告したようにネジザウルスRXが2014年度のグッドデザイン賞を受賞し、2009年のGTに続くネジザウルス連続受賞となりました。同時にエントリーした精密圧着ペンチも受賞し、おかげさまで2014年に発売した2つの新製品が同賞を受賞することになりました。



PZ-59 ネジザウルス RX

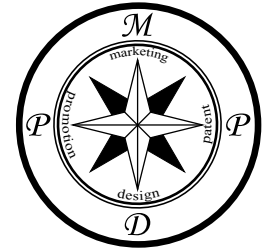
2014年の  
ダブル受賞



GOOD DESIGN  
AWARD 2014



PAD11-13 精密圧着ペンチ



ウ：ちょっ、ちょっ、ちょっと！  
銀：いきなりなんやねん！ ビックリするやろ。  
ウ：さっきの社長さんの話の中の若手社員さんて、  
ひょっとして……銀次郎はんのことでっか？  
銀：そうや！ もう若手ちゃうけど (^\_^;)   
高：ウルスくん、まだ産まれる前だから知らなかった？  
ウ：ちゃいまんねん。銀次郎はんがGTのグリップをデ  
ザインしはったんは知ってました。けど、自分から  
やりたいゆうて手を挙げはったいうんは初耳です！  
高：それがね、こんな経緯があったんだよ～。  
(2008年晩秋 e 研究所にタイムスリップ⇒⇒)

銀：社長はん、今度のネジザウルスは金型を作って、成  
形グリップにするっちゅう話を聞いたんですが？  
高：そうだ、この新製品で勝負をかけるんだ！  
銀：そ、それやったら、いっぺんボクにデザインさせて  
もらえまへんやろか？  
高：デザインって……銀次郎くんやったことあるの？  
銀：じ、実はボク……「サバゲ」が趣味なんです！  
高：サバゲって、山でBB弾とか撃ち合うサバイバル  
ゲームのこと？ (@\_@;) それが……？  
銀：ボクのデザインしたカスタムガンが「オラガン・コ  
ンテスト」で3位になったんですわ！



2007年「オラガン・コンテスト」において、堂々の3位  
入賞を果たしたカスタムガンを構える銀次郎氏

高：そんなコンテストがあったんだ！？ でも3位って  
すごいじゃないか！ 大勢エントリーしてたの？  
銀：確か、17人でしたかな。  
高：ゴホッ、ゴホッ！ じゅ、17人中3位ね。まあ……  
倍率はともかく、レベルの高いコンテストだったん  
だろうね～ (^\_^;)   
銀：ネジザウルスも、「オラガン」以上に、握りやす～  
いグリップにしまっせ～！  
高：わ、分かった！ じゃあ、銀次郎くん頼むわ！  
銀：ホンマでっか！ 社長はん、おおきに！ (^^)   
(⇒⇒現在に戻る)

ウ：へえ～、二人の間にはそういう会話があったんでっ  
か？ 「芸」やのうて、「趣味は身を助く」でんな～。  
高：銀次郎くんにサバゲの趣味がなかったら、ネジザウ  
ルスGTは誕生していなかったかもしれないね。  
銀：グリップデザインを任せてもらわなかったら、今で  
も組み立てや検査だけをしていたかもしれまへん。  
ウ：ほんならボクも産まれてへん！？ (;\_;)   
高：あの日の銀次郎くんとの会話がネジザウルス伝説の  
出発点だったかもしれないと思うと感慨深いね。  
銀：グッドデザイン賞はいわば「初打席・初ホームラン」  
みたいなもんやったから、メッチャ感動しました！  
高：ドイツのiF Design Awardも受賞して、ますますデ  
ザインの重要性に目覚めたね。その後、きちんとし  
たコーチの指導を仰ぐようにもなったんだ。  
ウ：ところで今年はネジザウルスRXと精密圧着ペンチ  
がダブル受賞！ オメデトウございます！！  
銀：MPDPⅢ&Ⅳの2打席連続ホームランやから、5年  
前の初ホームランと同じくらいうれしいですわ！  
高：銀次郎くんが新人の指導もしてくれているので心強  
いよ。来年もこの調子でよろしく頼む。  
銀・ウ：は～い！ それでは皆さま、どうぞ良いお年を！